

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス 夢来		
○保護者評価実施期間	2026年 6月 1日 ～ 2026年 6月 13日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15 (回答者数)	9
○従業者評価実施期間	2026年 6月 1日 ～ 2026年 6月 8日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	18 (回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 6月 27日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用児は、楽しみに通所してもらえている。	家庭や学校以外で安心して過ごせる場所として、空間作りや利用児1人1人に寄り添った遊び、関わりなどを大切にしている。笑顔で、楽しかったと思って帰ってもらえる様に心がけている。	日常的な流れやケアについては、繰り返し、丁寧に取り組み、利用児が安心感や見通しをもてるようにする。活動では、新しい事にもチャレンジする機会を作る。
2	保護者と連携が取れている。	連絡帳をはじめ、アカウントLINEや電話等で、適時に情報共有することで、保護者に安心してもらえる様に心がけている。	保護者同士の交流を主にしたイベントを開催できていないため、勉強会を含んだ交流会の機会を設ける。
3	安全対策(虐待防止、身体拘束の適正化、避難訓練、業務継続計画、感染症対策)への取り組み。	各対策に担当職員をつけ、定期的に取り組んでいる。	基本的なことは職員の頭や身体に定着するよう、復習、反復を重ねていく。一方で、形骸化、パターン化しないために、固定化した内容とならないように工夫していく。研修を傍聴するだけでなく、グループワーク、実技を混ぜて学習していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用児も参加する避難訓練 取り組んでいる安全対策の保護者への周知	支援を優先に考えると時間の都合上、放課後に取り組むことが難しい。	長期休暇などを利用して、避難訓練に取り組める様に計画する。また、その様子を保護者が確認できるように発信する。
2	利用児への遊びの提供などがマンネリ化している。	平日の通所日は、支援時間のなかで入浴、飲食、医療的ケアなどにかかる時間が多くを占め、利用児に新しい遊びを提供したり、遊びを展開していくことに力が割きにくい状況となっている。	事前に遊びを決めて職員へ周知する。各利用児の遊びへの興味、参加方法などを記録し、職員間で情報交換、検証などをし、次回の遊びや取り組み方に繋げていく。 オモチャや絵本は、利用児に合っているか、定期的に見直しを図る。絵本は図書館に借りにいく、オモチャを作って遊んでみるなど、社会資源も活用しながら、活動の幅を広げる。
3			